

「どれか」ではなく全部を欲張ってもいい。 支え合えればそれも可能！

竹熊千晶 熊本保健科学大学保健科学部看護学科教授

地域のなかの老いと病いに みんなでどう向き合うのか

実を言うと、最初から研究者を目指していたわけではありません。しかし、何かを調べてまとめたり、新しいやり方をみんなで考えたりするのは好きでした。離島で保健師の仕事をしていた時、忘れられない場面がいくつかありまして……。例えば、お嫁さんが「私ののさり(※)ですもん」と言いながら、明るく何十年とお姑さんの介護をされているご家族に出会ったんですね。ほかにも病気で麻痺が残った人が一人で暮らしながら「私ののさり」と地域のなかで生活されていたのです。「のさりって、なんだろう」と思い始めたことが、研究者としてのきっかけだったように思います。

もともと研究のベースとして「地域のなかの病気や障がいに対する考え方が、そこに住む人々の生活にどのように影響を与えるか、どうしたら住みやすい地域になるのだろう」という考えがありました。現在『NPO老いと病いの文化研究所われもこう』という活動をしています。これは、地域にある空き家を活用し、重い病気や障がいになっても最期まで尊厳を持って生

きるができる“家”です。『ホームホスピス』と呼んでいます。老いること、病いを持つこと、そして死にゆくこと。それを“看護”として地域のなかでどのように支援していくことが可能なのか、ということを実践を通して検証しています。

支えてくれる人の存在に 気づくことの大事さ

看護教育のなかで大事なこと。それは「学生たちに自分のやっていることを伝え、そして一緒に考えていく仲間を作ること」。同時に、社会に与える影響の大きさにも責任を感じています。

私の場合、子育てやPTA活動、主婦経験、介護など、すべてが仕事に活かされました。女性は特に、結婚や子育てなど、やるべきことが増えていきます。でも「どれか」ではなく「全部」を欲張ってみてもいいと思うのです。支えてくれる人がたくさんいることに気づいてください。そして自分が支えられたら、次はあなたが周囲を支える役になってください。

※のさり：熊本県を中心に九州地方で使われる方言。「天からの授かり物、めぐみ」という意



「われもこう」の玄関で



入居者フミコさんが亡くなる1週間前の2ショット



Chiaki TAKEKUMA

教育学部
保健師・助産師養成学校
保健師／看護師
専業主婦
訪問看護師
大学教員

今までの自分の経験
すべてを活かして
仕事をする
ことができる

One day

6:30 起床
8:00 大学や実習施設へ
実習指導や調整
講義、学内・学外の会議
18:00 研究室でやっと仕事
22:00 帰宅
ニュースを見ながら犬とボール遊び
24:00 就寝

◎最近の好きな言葉
置かれた場所で咲きなさい
◎宝もの
我が家の犬！
もちろん人間の家族も。

profile

たけくまちあき / 1962年熊本市生まれ。熊本大学教育学部卒業。社会文化研究科博士課程修了。公共政策学博士。保健師、看護師などの看護の仕事をするなかで、患者本人とその家族の持つ力の大きさに感動し、家族を含めた支援の大切さも痛感する。ホームホスピス「われもこう」の運営にも携わる。NPO法人「老いと病いの文化研究所」代表。



アンケート
より

Q.仕事上「女性」が気をつけた方がいいと思う点はありますか？(複数回答含む)

頑張り過ぎない 56% 女性だからと甘えない 54% いい相談相手をつくる 57%
同僚への気遣い 31% その他 8% ない 9%